

執行役メッセージ

Our Executive Team

オリンパスは、患者さんの安全を最優先に考え、「私たちの存在意義」の実現に注力しています。世界をリードするメドテックカンパニーを目指し、経営戦略の実行を推進している執行役をご紹介します。



Executive Chairperson

取締役 代表執行役 会長兼
ESG オフィサー (ESG 担当役員)

竹内 康雄

Profile
https://www.olympus.co.jp/company/profile/officer/yasuo_takeuchi.html

See page 02

CMO

執行役 チーフメディカルオフィサー
(最高医学責任者)

ジョン・デ・チェベル

Profile
https://www.olympus.co.jp/company/profile/officer/john_de_csepel.html



See page 31

ESD Head



執行役 エンドスコピックソリューションズ
ディビジョンヘッド
(最高内視鏡事業責任者)
フランク・ドレバロウスキー

医療のイノベーションを推進します

私たちは、ケア・パスウェイに沿って医療水準を向上させ、医療の未来に貢献するため、欧州を皮切りにインテリジェント内視鏡医療エコシステムを積極的に展開しています。2024年3月期には、北米および中国でEVIS X1システムの販売を開始し、グローバル展開に成功したことに伴い、販売活動を促進しています。また、ソニー株式会社と協業関係を強化する契約を締結し、超音波内視鏡システムにおける新たな協業パートナーであるキャノンメディカルシステムズ株式会社との連携も強化しています。今後も医療従事者の皆さまからのイノベーションへの期待に応えるため、産学連携を推進し、革新的な医療ソリューションを提供していきます。そして、ロボティクスやシングルユース製品の開発を加速することで、より効率的で質の高い医療を実現し、医療の未来を創成していきます。

Profile
https://www.olympus.co.jp/company/profile/officer/frank_drewalowski.html

CFO

執行役 チーフファイナンシャルオフィサー
(最高財務責任者)

泉 竜也

Profile
https://www.olympus.co.jp/company/profile/officer/tatsuya_izumi.html



See page 22

患者さんおよび顧客志向のソリューションプロバイダーとしての オリンパスの戦略的ビジョンを描きます

内視鏡医療のリーダーとして、オリンパスには患者さんの医療アクセスを向上する責任と、患者さんの治療を進歩させ続けるという強い意志があります。CSOとしての私の最優先事項は、患者さんを第一とした考えに基づいて成長できるよう、長期的かつ包括的なビジョンの策定を主導することです。当社の有能な人材に活気をもたらす、当社が最も大きな影響を与えることができる領域において、革新的で一貫したソリューションを提供し続けることに注力しています。その一例が、インテリジェント内視鏡医療エコシステムの進化と普及です。進化する顧客ニーズと市場ダイナミクスに対応した価値創造の道筋を描くことは、グローバルに多様な企業にとってますます複雑になっています。お客様にサービスを提供するために私たちは進化し続けるとともに、当社の長期的ビジョンと戦略的優先事項はマクロ環境と市場の変動に対して、変化に強く柔軟な適応性を備える必要があります。また、成長機会や成長のための価値の源泉だけでなく、戦略的な目標を達成するために長期的に必要とされるケイパビリティ(能力)、ツール、システム、ビジネスモデルにも幅広く目を向ける必要があります。

これらの取り組みを通じて、オリンパスを製品ソリューション・プロバイダーから、ケア・パスウェイに沿った、より包括的な患者さんおよび顧客志向のソリューション・プロバイダーへと変革し続けたいと考えています。私は、オリンパスが長期的な目標を達成できると確信しています。オリンパスの各部門、各機能、各地域には素晴らしい人材がそろっており、私たち全員が同じ方向を向いて邁進できるよう、その一翼を担ってまいります。

CSO



執行役 チーフストラテジーオフィサー
(最高経営戦略統括責任者)

ガブリエラ・ケイナー

Profile
https://www.olympus.co.jp/company/profile/officer/gabriela_kaynor.html

CMSO



執行役 チーフマニュファクチャリング
アンドサプライオフィサー
(最高製造供給責任者)

小林 哲男

オリンパスの基盤である「ものづくり」を「価値づくり」へ進化させます

私は、オリンパスのオペレーションの中核を担う製造・修理・調達・サプライチェーンを取りまとめるCMSOとして、当社の基盤を「ものづくり」から「価値の創造」を意味する「価値づくり」へと進化すべく、施策の展開を進めています。FDAからの警告書で指摘された事項に対する課題解決をはじめとして、世界をリードするメドテックカンパニーとして、患者さんの安全を最優先とした品質管理システムの徹底、事業継続性の観点からレジリエンスの高いサプライチェーンの構築、デジタル化やプロセス標準化による継続的なコスト改善などを推進しています。また、これらの施策の実効性を高めるため、ダイバーシティにも配慮した人材の活用、強化にも注力しています。今後もこのような活動を通して、「価値づくり」への進化を加速していきます。

Profile
https://www.olympus.co.jp/company/profile/officer/tetsuo_kobayashi.html

高度なイメージング技術と治療技術をもとに、 付加価値の高い製品やソリューションを提供していきます

治療機器事業では、引き続き消化器科処置具、泌尿器科、呼吸器科に注力してまいります。将来成長を見据えた次世代製品のパイプラインを拡充するため、自社のコアコンピタンスを明確化するともに、リソース、開発スピードなどを考慮し、他社とのパートナーシップやM&Aも積極的に活用していきます。

注力3領域では、戦略的製品が堅調に推移しており、特に消化器科処置具のパウダー状止血剤EndoClotや呼吸器科のEBUS-TBNAスコープ等は力強い成長を実現しています。泌尿器科では、iTindやシングルユース尿管鏡が今後の成長に寄与することを期待しています。

「見えないものが見えれば、治療の可能性が広がる」という医療従事者の方々からの声を受けて、オリンパスはこれまで見えなかった病変を内視鏡技術で可視化することに取り組んできました。この内視鏡による可視化技術は継続して進化させるべきですし、同時に医療従事者の皆さまと協業してアンメットニーズを探索し、最適な治療手段を提供していくことが重要だと考えています。オリンパスが持つ高度なイメージング技術と治療技術をもとに、長期的な視点でイノベーションを加速し、付加価値の高い製品やソリューションにより、患者さんが最適な治療を受けられるよう支援してまいります。

Profile

https://www.olympus.co.jp/company/profile/officer/seiji_kuramoto.html

CHRO



執行役 チーフヒューマンリソースズオフィサー
(最高人事総務責任者)

大月 重人

会社と従業員が一体となり、同時に従業員一人ひとりの成長を促進することで、 オリンパスの持続的成長につなげていきます

患者さんの安全、製品の品質に対する期待と責任が増す中、当社はこれまでも私たちが大切にしてきた「患者さん第一」という価値観を言語化し、2024年2月に全社員共通のコアバリューに盛り込みました。グローバル共通のリーダーシップの指針、グローバル・リーダーシップ・コンピテンシー・モデルもこれに併せてブラッシュアップします。世界中のリーダーが「Leaders Developing Leaders」を体現し、人材配置のプロセス、報酬、育成・スキル開発等の情報にアクセスできる仕組みをIT面でも強化し、グローバルでの適所適材を促進することで意欲ある従業員の成長を加速します。同時に、DEI*を実現する取り組み等を促進することで、従業員一人ひとりがベストな状態でパフォーマンスを発揮できる健やかな組織文化を醸成し、オリンパスの持続的な成長につなげていきます。

* ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン

Profile

https://www.olympus.co.jp/company/profile/officer/shigeto_ohtsuki.html

TSD Head



執行役 セラピューティックソリューションズ
ディビジョンヘッド
(最高治療機器事業責任者)

倉本 聖治

CTO



執行役 チーフテクノロジーオフィサー
(最高技術責任者)

アンドレ・ローガン

Profile

https://www.olympus.co.jp/company/profile/officer/andre_roggan.html

より良い臨床成果、医療経済性の向上、最適なユーザーエクスペリエンスを 実現する革新的なソリューションを創造するために、最先端の技術を活用します

私たちは先進的なメドテック企業の研究開発組織として、患者さんを最優先に考えています。臨床の専門家と協力してアンメットニーズや改善すべき領域を理解し、新たな技術を重点領域や対象疾患に適用できないか、技術の見極めを行っています。医療従事者との新たなソリューションの共同開発、戦略的パートナーシップの維持、デジタル技術の積極的な活用は、対象疾患における医療水準の向上を目指す当社の重要な柱です。イノベーションへの確実な投資が、オリンパスの成長ドライバーとなります。

そして、高い計画精度、かつ最も効率的な方法で確実にプロジェクトを遂行するため、研究開発プロセスとエンジニアリングのケイパビリティ(能力)を絶えず改善しています。また、設計により製品の安全性を担保することを、開発活動の要としています。これらにより、患者さん第一の研究開発を実現していきます。オリンパスのイノベーションの原動力は、エンジニアとそのサポート機能です。優れた人材を惹きつけ、創造性を育むとともに、女性のリーダーシップと多様性を尊重します。健やかでパフォーマンスの高い組織を目指しながら、持続可能な未来に対して責任を持って行動していきます。

総合的な品質変革プログラム「Elevate」を通じて、力強い未来を構築しています

総合的な品質変革プログラムであるElevateは2年目を迎え、私は当社の方向性を前向きに捉え、取り組みが進んでいることを嬉しく思います。私たちは法規制に対するコミットメント、規制当局との緊密な連携、品質とコンプライアンスの強化、患者さんの安全を基本的な指針とするなど、やるべきことを着実に実行しています。

また、当社では基盤強化にも注力しており、品質システムの構築や組織の合理化を行い、仕事の進め方を見直し、統合するとともに、ITシステムへの投資を行うことで、より効率的で効果的な組織を目指しています。グローバルな品質システム・プロセスを展開し、業務遂行の有効性を向上させ、QARA組織をさらに進化させるためには、やるべきことが多くありますが、私たちの順調な進捗は、目に見える形で表れ始めています。

Profile

https://www.olympus.co.jp/company/profile/officer/boris_shkolnik.html

CQO



執行役 チーフクオリティオフィサー
(最高品質法規制責任者)

ボリス・シュコルニック



執行役 グローバルジェネラルカウンセル
(最高法務責任者)

ニール・ボイデン・タナー

Profile

https://www.olympus.co.jp/company/profile/officer/neil_boyden_tanner.html

Global General Counsel

患者さんの安全を確保しながら持続的な成長を推進するのが、法務、知的財産、 コンプライアンス、リスクマネジメント、ガバナンスの領域のミッションです

私は、グローバルジェネラルカウンセルとして法務、知的財産、コンプライアンス、リスクマネジメント、ガバナンスをグローバルで統括しており、最高水準の患者さんの安全を確保しながら持続的な成長を実現することを目指しています。私のチームは、説明責任と透明性を確保し、倫理的な意思決定を行う文化を会社全体に浸透させるために尽力しています。積極的にリスク管理や規制の遵守を徹底し、ガバナンスのベストプラクティスを推進することにより、潜在的な課題を軽減し、長期的な成功のための強固な基盤を築くことができると考えています。複雑な医療業界において、責任を持って効果的に課題に対処することで、患者さんの安全を向上させ、顧客満足度を高めるとともに、市場でのプレゼンスを発揮し、株主価値の向上につなげてまいります。